

トマトの栽培終了後、コナジラミ類の防除の徹底を！

1. 対象作物： トマト、ミニトマト

2. 対象病害虫名：

トマト黄化葉巻病（媒介虫：タバココナジラミ）

トマト黄化病（媒介虫：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）

3. 被害の状況

今期作のトマト生産ほ場において、トマト黄化葉巻病、トマト黄化病の発生が目立っています(図1)。

2021年3月から5月の病害虫防除所の巡回調査におけるこれらの病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの蛹寄生葉率（合計値）は、3.5%（10年平均 0.5%）で平年の7倍と多い状況となっています。（図2）。被害を低減させるためには次期作へ向けての対策が必要です。

4. 今後の対策

（1）薬剤防除の実施

- ① コナジラミ類の密度が高い場合や、蒸し込み処理が実施できない場合は、薬剤防除を実施してください。
- ② 薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
- ③ 防除薬剤は三重県農薬情報システム (<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/mie>) で検索することができます。

（2）蒸し込み処理の実施

施設内に残ったコナジラミ類を死滅させ、トマト株を確実に枯死させるようにします。

次期作までの間に十分な期間を確保し、施設を密閉して蒸し込み処理を行ってください。

- ① 蒸し込み前に、施設内の雑草を除草し、施設が密閉となるよう施設の点検補修を行ってください。
- ② トマトは株を抜くか、茎を地際部で切断した後に施設を密閉してください。
- ③ 効果的な蒸し込みを行うには、施設内の最高気温が50℃以上になった日が、蒸し込み期間中に3日以上経過することを目安とします。夏期の晴天日（外気温27℃以上）であれば、ほとんどの場合、施設内の温度は50℃以上に上昇します。



図1 トマト黄化病の多発生ほ場

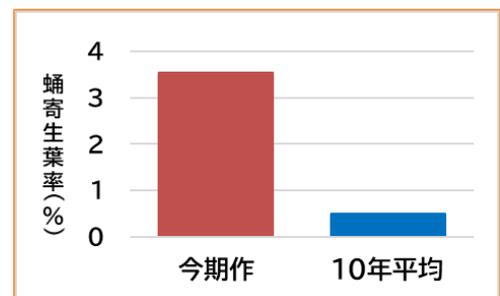


図2 タバココナジラミ 蛹寄生葉率
(2021年3～5月の合計値・防除所調べ)

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。